

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

草津市立山田小学校 教諭 澤 節 生

1. 単元名 『食品ロスをなくそう！』

2. 単元の見目

- 食品ロスの現状やその要因について理解することができる。 (知識・技能)
- 身の回りの食品ロスの現状やその要因について調べたことや考えたことをまとめたり、その解決に向けて自分たちにできることを考えて発表したりできる。 (思考力・判断力・表現力)
- 食品ロスの問題が自分たちのくらしと深く関わっていることに気づき、食品ロスの解決に向けて自分たちには何ができるのかを考え、行動化することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

近年、「食品ロス」の問題が大きくクローズアップされている。食品ロスの問題は単に「もったいない」ということに留まらず、経済的損失や食料不足、地球の環境や生態系への深刻な影響といった様々な問題を引き起こしている。日本では年間約464万トンの食品ロスが発生しており、これは国民一人当たりで見ると、毎日おにぎり1個分を捨てている計算になる。日本では、豊かさや便利さが当たり前で、食品ロスに対する意識がまだまだ低いですが、世界に目を向けてみると飢えや貧困に苦しむ国々も少なくない。

そこで、本単元では、食品ロスの問題に焦点を当て、食品ロスをなくすために自分にできることを考えていく。食品ロスの問題は自分とは遠いどこかの国や地域で起こっている問題ではなく、今まさに自分たちの目の前にある問題であり、自分も地球に生きる一員として、これからの未来に続くための「食」の在り方について考え、行動につなげていく学習を行うことは、これからの生きる子どもたちにとって大変意義深いことであると考えます。

(2) 児童観

5年生の子どもたちは、これまで、給食センターの施設見学や、地域の方々の協力のもと行った田植えや稲刈り等の活動の中で、「食べ物を大切にしたい」、「好き嫌いなく何でも食べてほしい」といった調理者・生産者の方々の願いにふれてきた。また、スクールESDや地域協働合校の学びの中で、環境を守っていくことの大切さなどについても学習を重ねてきた。しかし、子どもたちの日常に目を向けると、給食の残飯が多く見られたり、食材を安易に捨てたりする姿が見られるなど、頭でわかっていることと実際の行動とが整合していない場面も少なくない。

そこで今回の学習では、聞き取りや残飯量調べ等の学習を通して、あらためて食品ロスの問題を自分たちの身近なくらしとつなぎ合わせ、食品ロスの問題は自分たち自身の問題であることに気付かせていきたい。そして、飽食の中を生きる一人として自分にできることを考え、家庭や地域とも協力して行動していくことの大切さに気付かせていきたい。

(3) 指導観

本単元の学習にあたっては、まずYouTubeの映像や写真資料を用いて、世界の貧困や飢餓の現状に出会わせる。そして、「世界にはいま7億3000万人近くの人々が飢餓で苦しんでいる」という現実がある一方で、「世界中で生産される食料の約3分の1が廃棄されている」という食品ロス問題の現状に出会わせることで、子ども自身の中に違和感を与え、課題意識につなげていきたい。そして、そこから、校内や草津市全体での給食の残飯量の様子、自分の家庭の状況など、自分たちのくらしの事実を目に向けさせていくとともに、残菜をできるだけ出さない調理実習に取り組んだりすることで、自分自身の「食」への向き合い方や自分たちのくらしの在り様の中に、食品ロスにつながる要因やその解決に向けたヒントがあることに気付かせていきたい。

そして、次に、食品ロスを減らすために自分たちができることを考えさせていく。その際、草津市内にある立命館大学で「食」をテーマに活動するサークル「BohNo (ポーノ)」の学生に来てもらい、各グループに一人ずつ学生が付いて少人数で子どもたちの思考や話し合い活動をサポートしてもらうことで、子ども一人ひとりが、食品ロスに対する自分の認識や具体的な自分の行動目標をしっかりと持てるようにしていきたい。

さらには、自分たちが調べ、学び、考えたことを、自分の家庭や学校、地域へと発信していくことで、みんなと協働して取り組む実効性ある食品ロス削減への一歩につなげていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性

食品ロスの問題は、生産・加工・流通・消費の各過程において起きているということ。

連携性

食品ロス問題の解決には、学校・家庭・地域それぞれの立場からこれまでの取組を見直し、連携していくことが大切であるということ。

責任制

食品ロス問題の解決には、自分たち自身が食生活や消費行動の様式を変えていく必要があるということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

未来を予測して計画を立てる力

自分たちの生活や消費行動が今後の地球環境にどう影響するかを長期的な視点で捉え、食品ロスの削減に向けて何ができるか考え取り組むことができる。

コミュニケーションを行う力

どうすれば食品ロスを減らせるか話し合う中で、周りの話や意見を意欲的に聞こうとしたり、自分の考えや思いを相手に伝えようとしたりすることができる。

進んで参加する態度

食品ロスの問題を自分事として捉え、自分にできることは何かと考えながら積極的に関わろうとできる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

自然環境、生態系の保全

食べ残しや無駄を省くなど、自分自身の生活を見直し改めていくことが、自然環境への負荷を低減していくことにつながっていく。

世代間の公正

いまの自分たちだけでなく将来にわたって誰もが豊かに安心して生活していけるよう、環境に配慮した生活や消費行動をとっていくことが大切である。

・達成が期待されるSDGs

- 2 飢餓をゼロに
- 12 つくる責任、つかう責任

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①食品ロスについて、その現状や要因を理解している。</p> <p>②食品ロスについて調べたり、身近な人にインタビューしたりするなどして集めた情報を整理して、図や文章でまとめる技能を身につけている。</p>	<p>①食品ロスを減らすために学校や家庭、地域でできることを考えている。</p> <p>②まとめた内容をポスターや新聞、パワーポイントなどでわかりやすく表現している。</p>	<p>①給食センターの職員さん(栄養教諭)や「食」をテーマに活動する大学生、地域の方の話などを、意欲的に聞いている。</p> <p>②食品ロスを減らすために考えたことを、相手にわかりやすくまとめたり、説明したりしようとしている。</p>

5. 単元の指導計画 (全14時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(△) 備考(・)
1	<p>○写真や資料をもとに、「貧困」や「飢餓」の現状について考える。[1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界には貧困や飢餓で苦しむ人々がたくさんいる。 ・飢餓で苦しむ人の数(飢餓人口)は増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真「バングラデシュの少女」や資料「少女の一日の暮らし」をもとに話し合う中で、世界の貧困や飢餓の現状について捉えさせる。 	ア① (知・技)
2	<p>○「食品ロス」の問題について知る。[1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界には貧困や飢餓で苦しむ人々が多くいるのに、日本ではたくさんの食料が無駄に捨てられている。 ・日本はたくさんの食料を輸入しているのに、食品を無駄にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の大学で「食」をテーマに活動している大学生の人たちから、「食品ロス」の問題について教えてもらう。 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界や日本の食品ロスの量 ○日本の食料自給率 	ア① (知・技) ウ① (主体的)
3	<p>○校内の給食の食べ残しの状況について調べる。[1]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思った以上に食べ残しが多い。 ・好きなもの場合は食べ残しが少ない。 <p>○給食センターを訪問し、市内の給食の食べ残しの状況について調べる。[2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全体でもたくさんの食品ロスが起こっている。 ・給食の食べ残しを減らすために何かできないかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内や市内の給食の食べ残しの状況を調べたり、給食センターの職員さんや栄養教諭から話を聞いたりすることで、自分たちの身近なところでもたくさんの食品が無駄に捨てられている現状があることに気付かせる。 	ア① (知・技) ウ① (主体的)
4	<p>○残菜をできるだけ出さないレシピの調理実習に取り組む。[2]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・残菜をできるだけ出さない料理づくりに実際に取り組んでみることで、自分たちが何か少し工夫していくことが食品ロスの削減につながっていくことに気付かせる。 	家庭科 評価

5	<p>○食品ロスの削減に向けて取り組んでいる方に、インタビューを行う。[2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの方や栄養教諭 ・家の人 ・地域の農家さん ・地域にあるスーパーや飲食店の方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにできることを考えるための手立てのひとつとして、食品ロスの削減に向けて実際に取り組んでいることや困っていること、「食」への想いや願いなどを聞き取る。 ・食品ロスの原因が自分たちの身近な生活の中にあることや、食品ロスをなくそうと頑張っている人が自分たちの周りにもたくさんいることに気付かせる。 	<p>ア② (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
6	<p>○「給食」、「家庭」、「地域」の3つのチームに分かれ、自分たちがこれまで学んだことや感じてきたことをもとに、食品ロスを減らすために自分たちにできることを考える。[4]</p> <p>給食の残菜を減らそうチーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの食べ残しの量を調べ、食べ残しの少ないクラスを表彰する。 ・集会や校内放送、ポスターなどで全校に呼びかける。 ・自分の食べられる量を盛りつける。 <p>家での食品ロスを減らそうチーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが学んだことや考えたことをブックレットなどにまとめる。 ・家庭で賞味期限の切れそうなものがないか確かめる。 ・冷蔵庫にあるものを確かめてから買い物をする。 ・残菜の出ない料理のレシピをまとめる。 <p>地域の人に呼びかけようチーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが学んだことや考えたことをブックレットやポスター、新聞などにまとめる。 ・スーパーやコンビニに、食品ロスの削減や、手前取りを呼びかけるポスターを貼ってもらう。 ・食べ放題の飲食店に、取り過ぎをなくすよう呼びかけるポスターを貼ってもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教師がスーパーや飲食店を訪問したり学年だよりを配布したりするなどして取組の意図を伝え、子どもたちの活動に対して校内や家庭、地域から協力が得られるようにしておく。 ・毎日のくらしの中で取り組んでいけることを具体的に考えさせる。その際、第2次でお世話になった大学生にも各グループに入ってもらい、支援してもらおう。 ・自分たちの考えを、誰に向けて、どんな方法や言葉で伝えていくといいか、グループで話し合ったり、お互いにアドバイスを合ったりさせる。 	<p>ア② (知・技)</p> <p>イ①② (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
7	<p>○食品ロスの解決に向けて自分たちで考えまとめたことを発信する。[1]</p> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラスや校内放送、集会の場 ・自分の家族 ・近くのスーパーやコンビニ ・地域の方、まちづくりセンター ・草津市こども環境会議 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学んだことや食品ロスを減らすために考えたことを伝え、協力をお願いする中で、みんなで取り組んでいくことの大切さを実感させる。 ・伝えに行った時や回収に行った時に、相手の方から感想やお客さんの反応などを教えてもらうことで、今後に向けて意欲を高める。 	<p>ウ② (主体的)</p>